

 **法務省矯正局**

〒100-8977東京都千代田区霞が関1-1-1
tel.03-3580-4111(代表)

法務省矯正局

検索



 **法務省矯正局**



少年の立ち直り × 地方創生のススメ

地域の困りごと、少年院がお手伝いします

「役立つ」とは？

地域と支え合うには？



一度は間違った道に進んでしまったけれど

「いろんな人に迷惑をかけた分

少しでも誰かの役に立つことがしたい」

「自分たちでも誰かの助けになれると感じてほしい」

「地域と支え合う施設でありたい」

そんな生徒や職員の思いから

少年院では更生支援の一環として社会貢献活動を行っています

そんな生徒や職員の思いを受け止め

応援・協力してくださっている地方自治体や民間団体

地域の方々のおかげでこの活動は成り立っています

そして今その社会貢献の輪が

少しずつ広がっています

少年たちの立ち直りを応援しつつ、地域の課題も解決する。

そんな「立ち直り×地方創生」、一緒に始めてみませんか。

ケイムション

刑務所・少年院×立ち直り・
地方創生アイデアソン

KEIMUSHON



「役立ちたい」は
ここから始まりました。

What is 「ideathon」?

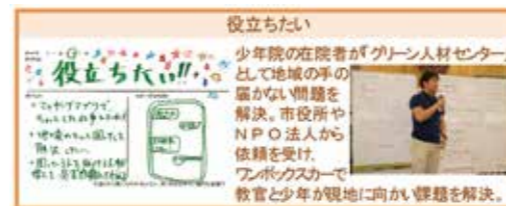
アイデアソン

「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語であり、様々な分野の人によるディスカッションを通じ、新たなアイデアやビジネスモデルを生み出すことを目的としたワークショップ。



令和元年6月、法務省職員だけでなく、地方自治体、企業や民間団体の職員、大学教授、学生などといった多様な参加者約160人が参加し、「少年院出院者が、彼らの立ち直りを支援してくれる人・場所・情報とつながる仕組みの作り方」や「刑務所・少年院が有する人的・物的資源の地域社会での活用方法」などをテーマにアイデアを出し、グループワーク等を行い、最終的に3つのアイデアを選出しました。

3つのアイデア



ケイムション後



矯正施設と地域が連携した
「立ち直り×地方創生」実現プロジェクトチームにて検討

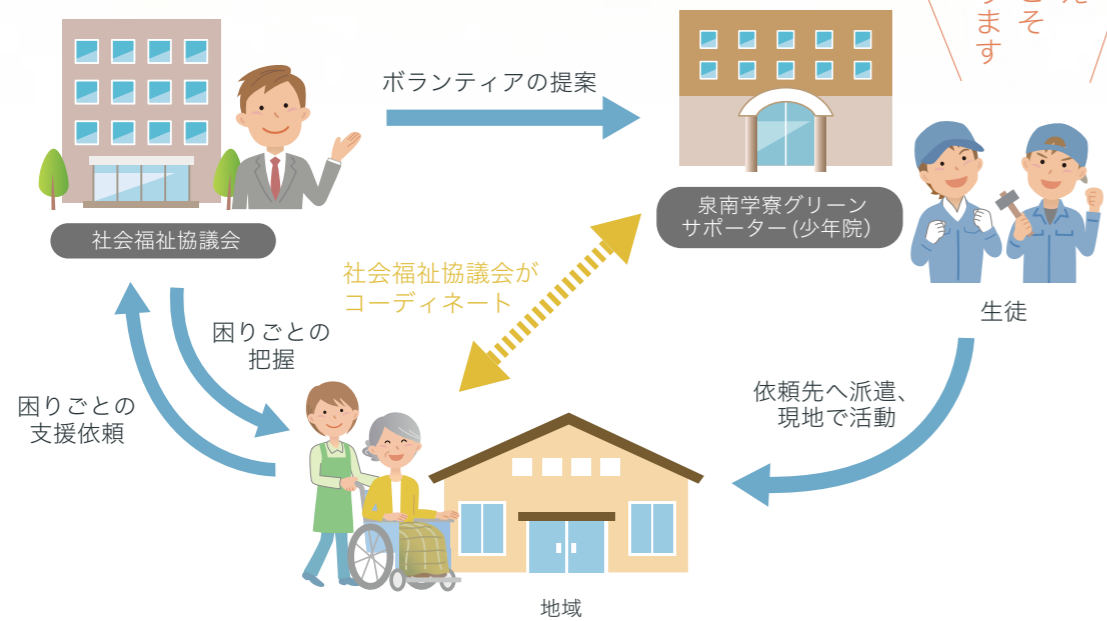
「役立ちたい」の理念実現化へ

P3へ「泉南学寮グリーンサポーター」(通称:グリサポ)の取り組みへ

泉南学寮グリーンサポーター

「ケイムション」において選出されたアイデア「役立ちたい」の理念を実現したモデルケースとして、大阪府大阪市に位置する少年院「泉南学寮」において、生徒と職員により結成されたボランティア団体が、依頼を受けて地域が抱える困りごとや課題を解決する取組を行っています。

グリサポ CONCEPT



生徒たちが自ら考え主体的に動くからこそ得られるものがあります

グリサポ 3つの強み



ボランティア団体として社会福祉協議会に登録

少年院としては全国で初めて、大阪府大阪市の社会福祉協議会にボランティア団体としての認定・登録を受けています。令和2年1月には阪南市長が出席の上、認定式を行いました。



社会福祉協議会との強固な連携

社会福祉協議会が地域における困りごとを的確に把握した上で、必要なボランティアを泉南学寮に提案・依頼するなど、社会福祉協議会によるコーディネートを受けています。



生徒が主体的に学び、考え、動けるシステム作り

生徒が自分たちに何が出来るか等をグループワークで話し合ったり、活動を通じ依頼者の方から感謝される体験をしたりすることで、社会に貢献している実感や自己肯定感を得ることができます。

グリサポの強み 1

グリサポの強み 2

グリサポの強み 3



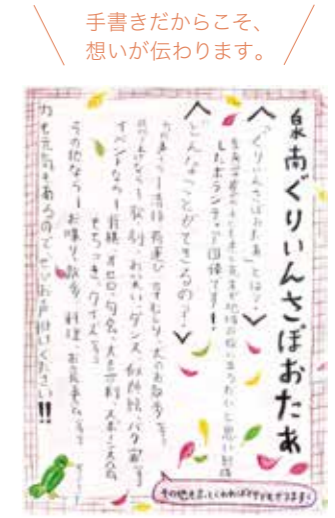
ロゴマークに込めた思い



施設用「いぶぎ」くん
生徒の発案により誕生。阪南市の中で、グリーンサポーターのシンボルでもある若葉が、少年を投影できる人型で表現されており、少年の息吹が感じられるデザイン。これがレコードのラベルに描かれており、「レコードプレイヤー」という機械(活躍する機会)が提供されれば、レコード(少年)が再生(立ち直る)される」ことを意味している。



配布用(ステッカー)「かつみ」くん
阪南市社会福祉協議会の協力によりレコードプレイヤーという機械(活躍する機会)が提供され、レコード(少年)が再生(立ち直る)する様子がカツミの花をイメージさせる人型で描かれ、少年の躍動が感じられるデザイン。カツミの花言葉は「苦難の中の力」であり、花言葉の意味を取り入れたデザインは生徒の発案。



生徒が作成した手書きチラシ

Case 1

「漁港の人手が足りない」

高齢化が進み、人手不足であることから、漁業組合の地域活性化に向けた取組の一環である牡蠣の仕分け作業をお手伝いしました。

3名の生徒が参加し、最初は苦戦したものの、作業を進めるにつれてスムーズにこなせるようになり、漁師さんから手際が良くて助かると、お褒めの言葉や感謝の言葉をいただきました。



生徒の感想

「『ありがとう』と言われて、とても嬉しかったし、社会で人に迷惑ばかりかけてきた自分でも、誰かの役に立つことができるんだと思った。今まで感じたことのない気持ちになった。社会に出ても人助けをしたい。」

「ボランティアの講話で学んだ『自発性』を出すことができたと思う。今回の活動で学んだことを社会でも生かせるようにします。」

依頼者からは

生徒たちの意欲的に取り組む姿に、「ありがとう。助かった。」「また来てほしい。」といった言葉をいただきました。後日、お礼の手紙もいただきました。

指導者の想い

生徒たちは、地域活性化のための取組であるという意義をしっかりと理解して取り組んでいて良かったと思います。社会福祉協議会の協力により、今回のような変わった取組ができることが従来の社会貢献活動との違いであると思います。

Case 2

「家の片付けが進まず困っている」



高齢により家の片付け等ができずお困りになっている方からの依頼を受け、ご自宅の片付けや清掃作業を行いました。4名の生徒が参加し、集中して作業に取り組みました。すべて捨てることになっていましたが、一枚の写真を見つけた生徒が捨てずに依頼者に声を掛け、思い出の写真が見つかったと依頼者がたいへん喜ばれるという微笑ましい一幕もありました。

生徒の感想

「思っていた以上におばあちゃんが喜んでいるのを見て、自分まで嬉しくなりました。ボランティアは人のためになるだけでなく、周りの人ともコミュニケーションを取って楽しくできるので、ボランティアっていいなと思いました。」

「今回の作業はとても大変で辛かったけど、なぜかとても楽しかったです。本当に苦しかったけど、『ありがとう』という言葉が何より力になりました。」

依頼者からは

ごみは全て捨てることになっていたにもかかわらず、思い出の写真を残してくれた生徒の気遣いに、「家族を幸せにしてくれた。」との言葉をいただきました。後日、お礼の手紙もいただきました。

指導者の想い

従来の社会貢献活動では、個人宅で作業することなど考えられなかったが、直接依頼者と関わりながら困りごとを解決することで、生徒たちはより人の役に立てたという実感や達成感が得られたと思います。

Case 3

「移動販売の荷物運びが大変」

グループワークの中で出た意見がきっかけで、近隣の団地において、移動販売車の購入者の荷物運びをお手伝いすることになりました。

当日は8名の生徒が参加し、合計6件の荷物運びと除草作業を行いました。真夏の高温、そしてコロナ禍の中でしたが、生徒たちは最後まで弱音を吐かず、人との距離に気を付けながら取り組みました。



生徒の感想

「自分が今必要とされている喜びが実感でき、それが自信にもつながるので、こうした活動を地元でもしようと思いました。」

「おばあちゃんと歩いているとき自分の起こした事件のことを考えました。今後は高齢者を助ける側になろうと決めました。」

「今まではボランティアなんて損でしかないと思っていましたが、人とのつながりが増えるし喜ぶ顔がいっぱい見えるし、何事も見方の問題だと思った。」

依頼者からは

高齢の方々が多く、「助かった。」「ありがとう。」という言葉いただき、他の団地住民からも「ご苦労様。」と声を掛けていただきました。福祉委員の方から後日お礼の手紙もいただきました。

指導者の想い

直接お礼の言葉をいただいたことで生徒たちは達成感を得られた様子でした。生徒たちは地域住民の方にお配りするチラシや当日のポスター作りなどの事前準備も含め、主体的・積極的に活動に取り組むことができていたと感じました。

東北少年院



震災遺構施設の環境美化

東日本大震災での遺構施設周辺の除草作業を刈払機を使って行いました。生徒たちは整備が完了した敷地を見て達成感を得られたほか、施設の見学もさせていただき、震災被害について思いを巡らせていました。作業先の施設からは、除草にまで手が回っていない状況とのことで、当活動に感謝の言葉をいただきました。

播磨学園



特別支援学校のプール清掃

特別支援学校でプール使用開始に向けての清掃活動を行っています。生徒たちは、一年間溜まった落ち葉や汚れを取るのに苦労しながらも、きれいになったプールを見て、達成感を得ることができています。学校の先生からも、大変な作業であるため、非常に助かっているとお言葉をいただいています。

丸亀少女の家



近隣海岸のごみ拾い

出院間近の生徒が、少年院の裏に位置する海岸の清掃活動を行っています。参加した生徒は落ちていたゴミの量の多さに驚き、社会にいた頃に平気で道端にポイ捨てをしていたことを反省していたほか、通りかかった地元の方から「ごころうさん」と言われて、嬉しそうにしています。

福岡少年院



近隣神社の清掃

毎月1回、近所の神社の清掃を行っています。参加した生徒は、「清掃することで心がすっきりする。」「人の役に立つことはとても気持ちの良いことだと分かった。」といった感想を述べています。神社の方や参拝者の方々からは、「いつもありがとう。」と温かい言葉を掛けていただき、生徒たちは喜んでいきます。

多摩少年院



点訳絵本の製作・寄贈

八王子視覚障害者福祉協会から外部講師の御協力を得て、点訳絵本の製作に取り組んでいます。完成した作品は、福祉センターや盲学校に寄贈しています。寄贈の際、寄贈先の方々からねぎらいや励ましの言葉をいただき、生徒たちは社会に貢献する喜びを感じ、今までの人間関係を改めて考え直す貴重な機会となっています。

愛知少年院



木製名札のオイル塗布加工

豊田市及び同市保護司会から、知的障害者の福祉関連事業所において製作された木製名札ケースにオイルを塗布する依頼を受けて作業を実施しました。生徒たちは黙々と根気強く取り組み、丁寧にむらなく仕上げることができました。生徒たちは自分たちの作業が役立っていることを実感できたようで、今後も社会貢献をしたいと述べていました。

浪速少年院



ハロウィンカボチャの製作・寄贈

「コロナに負けない」をキャッチフレーズに、少年院でジャイアントカボチャを栽培し、手作りのハロウィンカボチャを製作して、近所の保育所等に寄贈しました。生徒たちは、カボチャの成長に驚くとともに、集中して製作に取り組みました。寄贈先からは、「利用者が見られるところに展示します。」と喜ばれました。

筑紫少女苑



エコたわしの製作

更生保護女性会を通じて依頼を受け、介護施設や養護施設、更生保護ボランティアの方々等に配付するためのエコたわしを作っています。生徒たちは、エコたわしの使用が食器用洗剤の使用量を抑え環境に優しいことを知り、生き生きと取り組んでいるほか、出院後もボランティアに参加したいと述べる生徒もいます。

東北少年院



汚損した写真の洗浄作業補助

東日本大震災を中心に、災害で汚損した写真の洗浄作業を行っている団体の作業補助を行いました。生徒たちは、「人の役に立っている実感が得られた。」「出院後もボランティアに参加してみたい。」との感想を述べており、同団体の方からは、活動自体を知ってくれたことや同活動への感謝の言葉をいただきました。

八街少年院



捨て犬の保護プログラムへの参画

捨てられるなどして保護された犬を再び人間の家庭で暮らせるよう訓練するプログラムに協力しています。生徒は犬とこれまでの自分を重ね合わせることが多く、「幸せになってほしい。」と、責任感を持って真剣に取り組んでいます。外部講師は「犬とのふれあいを通じて、自身の問題解決にもつなげてほしい。」という思いで指導をしてくださっています。

茨城農芸学院



地元のお祭りの会場設営

牛久市職員に協力し、5月に行われる「うしく・鯉まつり」会場での鯉のぼり掲揚をお手伝いしました。生徒は「陰で支えてくれている人がいるから、お祭りを楽しめるのだと感じた。将来は地元の地域活動もしていきたい。」と話しており、市職員からは、これからも協力をお願いしたいとの言葉をいただいています。

美保学園



街頭募金への協力

森林づくりや緑化推進に活用される「緑の募金」を、街頭に赴いて実施しています。生徒たちは、元気よく募金を呼び掛けており、募金活動の大変さとやりがいを感じるとともに、「社会で募金を呼び掛けている人を見かけたら率先して協力したい。」等の感想を述べていました。

「少年院」とは？

少年院って何？

非行（法に触れる行為など）に及び、家庭裁判所の決定により保護処分として送致された少年（おおむね12歳～20歳）を収容する、法務省の施設です。



中では何をしているの？

生徒一人一人の特性に応じた個人別の指導計画を作り、スムーズに社会復帰するため、生徒が自分の問題点と向き合い、改善できるよう指導を行っています。



どんな指導があるの？

少年院で行われる教育を「矯正教育」と言います。矯正教育は、生徒の特性に応じて、生活指導・職業指導・教科指導・体育指導・特別活動指導を組み合わせで行います。生活指導の中で、薬物や暴力・交友関係など自らの非行や抱える問題別の指導を行っています。

これまでの人生で、
したくてもできなかったこと、
知ろうとしてこなかったことを
学んでほしい。



東北少年院（宮城県）

生活指導



体育指導



教科指導



職業指導



特別活動指導

どんな支援をしているの？

生徒の中には、保護者が不在であったり、障害を抱えていたり、出院後に自立した生活を送ることが難しい人がいます。そうした生徒の円滑な社会復帰を図るため、修学・就業の支援、帰住先の調整や確保、医療・福祉機関につなぐ等の支援を行っています。



職場見学



ハローワーク同行



関係機関とのケース会議

時には
本気でぶつかり合う。
「自分も人の役に立てる」
「まだやり直せる」と
感じてほしいから。

